ボブスレー、公民館基本方針案、ドクターヘリなどで一般質問

平良木議員

平良木議員は、金谷山のスーパーボブスレーについて、部品の供給や加工など管理の実態と今後の対策についてただしました。

部品の加工に対しては、市側から「議員やメーカーからの指摘もあり、加工しての使用は危険であることから、そうしたことはやめている」という答弁がありました。個々のソリの管理にあたって、個別の識別番号と管理台帳がなかったのではとの指摘に、明確な答弁はありませんでしたが、夏休みシーズンに向けて、予備機の部品手配を行っており、6月末には41台が使用可能となる予定であることがわかりました。

コースの整備に関しても、現在は段差がある状態ですが、応急措置に加えて、きちんとした修繕の計画を立て、間もなく入札を行うとのことです。

市長は監視体制などについて、「十分な安全策を取るべきと考えている」と前向きな姿勢を示しました。

上野議員

上野議員は、公民館の運営及び配置に関する基本方針(案)や柏崎刈羽原発問題をとりあげました。

このうち公民館について、上野議員は、頸城区での取り組みを紹介しながら、「公民館・公民館分館は、その地域の歴史や特性に応じたコミュニティ活動の拠点であるが、再配置で地域のコミュニティ活動との整合性をどうとるのか」などと質問しました。

中野教育長はこれに対して、「分館の配置については、地域ごとに利用実態が異なり、施設に対する思いも様々なものがあるから、地域ごとに施設機能や効果を検証するとともに、その地域の他の公の施設の状況も考慮した上で、分館の将来的なあり方について市民の皆様と丁寧に論議を重ねてまいりたい」と答えました。基本方針案についての議論が、今後活発になり、より良い方向に向かって深まっていくきっかけになる答弁だと言えます。

橋爪議員

橋爪議員は、市民の命に関わる問題として、新潟県ドクターヘリについて質問しました。

橋爪議員は、今回の質問の契機となった5月2日の吉川区上川谷での事故のついてふれながら、ランデブーポイント（救急車とヘリが合流する場所。離着陸場）の増設、市民への周知、そして、隣県との協力協定締結の働きかけなどを求めました。

村山市長は、「ドクターヘリのランデブーポイントは増設に向けて上越地域消防事務組合と連携して取り組む」「ランデブーポイントがどこにあるかは市のホームページからも見られるようにする」「ドクターヘリの相互応援協定は、山形、福島両県だけでなく、長野県とも結ぶよう県に働きかける」などと答弁しました。

橋爪議員は、質問のあと、「答弁はとても前向きで、私からの要請に基づいて消防本部がホームページで取り上げたことに続く成果だ」と言っていました。

作付不能な田などを視察

浦川原区法定寺

日本共産党議員団は17日午前、浦川原区、牧区、大島区を回り、干ばつ被害状況を見てきました。

浦川原区法定寺の田んぼは、昨年も行ったことのあるところです。田植えが終わったものの、ひび割れができた田んぼ、水不足で代かきができない田んぼなどがいくつもありました。牧区片町では、代かき後、田植えができず、白くなって地割れのしている田んぼ、雑草が生えてしまった田んぼなどを見てきました。大島区上達では、何枚もの大きな田んぼで雑草が生い茂っていました。被害面積はここが一番大きいものと思われます。

同日の午後からは、農林水産部の川上部長などと干ばつ問題で懇談しました。

市の説明によると、これまでの調査で作付不能の田んぼが約8㌶にのぼっており、田んぼのひび割れ、用水不足などで今後、数十ヘクタールに被害が広がる可能性があるとのことでした。

議員団からは、、①被害面積、被害予想面積だけでなく、その背景にある原因をつかむ努力をしてほしいこと、②ポンプ購入など、干ばつに伴う出費についても確認してほしいこと、③中央農業総合研究センターなど、研究機関の知恵を総結集して、対策を考えることなどを要請しました。

大島区上達

牧区片町

日本共産党上越市議員団ニュース

No.３６９　２０１３年６月２３日

連絡先
橋爪　法一　090-5392-1961（吉川区代石）
上野　公悦　090-7260-9407（頸城区中柳町）
平良木哲也　090-1808-6919（上中田）

さようなら原発6.29上越集会

柏崎刈羽原発　再稼働を許さず、廃炉へ！

と　き　6月29日(土)午後2:00～(集　　会)
3:30～(パレード)

ところ　リージョンプラザ上越コンサートホール